



2025年2月期 第1四半期業績説明資料
(2024年3月～2024年5月)

株式会社メタリアル (東証グロース : 6182)



2024年7月12日

AI事業が受注・売上・利益で過去最高
今期は一気に成長加速へ

連結前年比：売上 **115.4%** 営業利益 **189.8%**

AI事業前年比：売上 **125.6%** 営業利益 **179.9%**

2025年2月期第1四半期 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2024年2月期 第1四半期	2025年2月期 第1四半期	前年同期比
売上高	983	1,135	115.4%
売上原価	332	348	104.9%
売上総利益	651	786	120.8%
販売費及び 一般管理費	539	574	106.5%
営業利益	111	211	189.8%
経常損益	124	207	166.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	59	135	227.3%

2025年2月期第1四半期 販管費 前年同期比較

(単位：百万円)

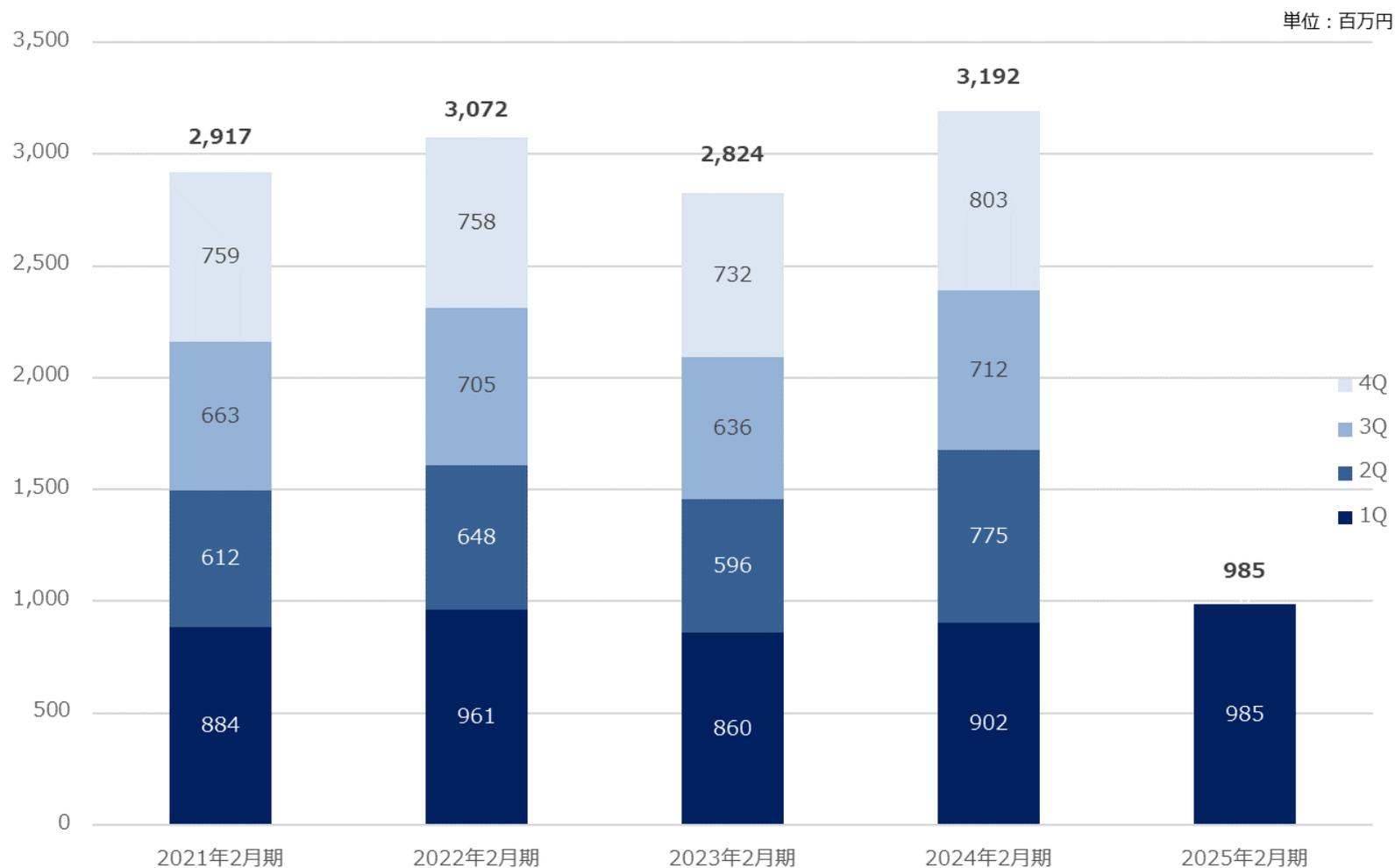
	2024年2月期 第1四半期	2025年2月期 第1四半期	前年同期比
販売費及び一般管理費	539	574	106.5%
採用・人件費	280	307	110.0%
広告費	37	45	120.1%
支払手数料	36	32	88.6%
販売手数料	29	27	93.2%
ネットワーク費	39	34	85.3%
研究開発費	51	50	96.2%
業務委託料	37	48	128.6%
その他	26	29	110.7%

(単位：百万円)

	2024年2月期 第1四半期	2025年2月期 第1四半期	前年同期比
売上高	711	893	125.6%
営業利益	160	288	179.9%

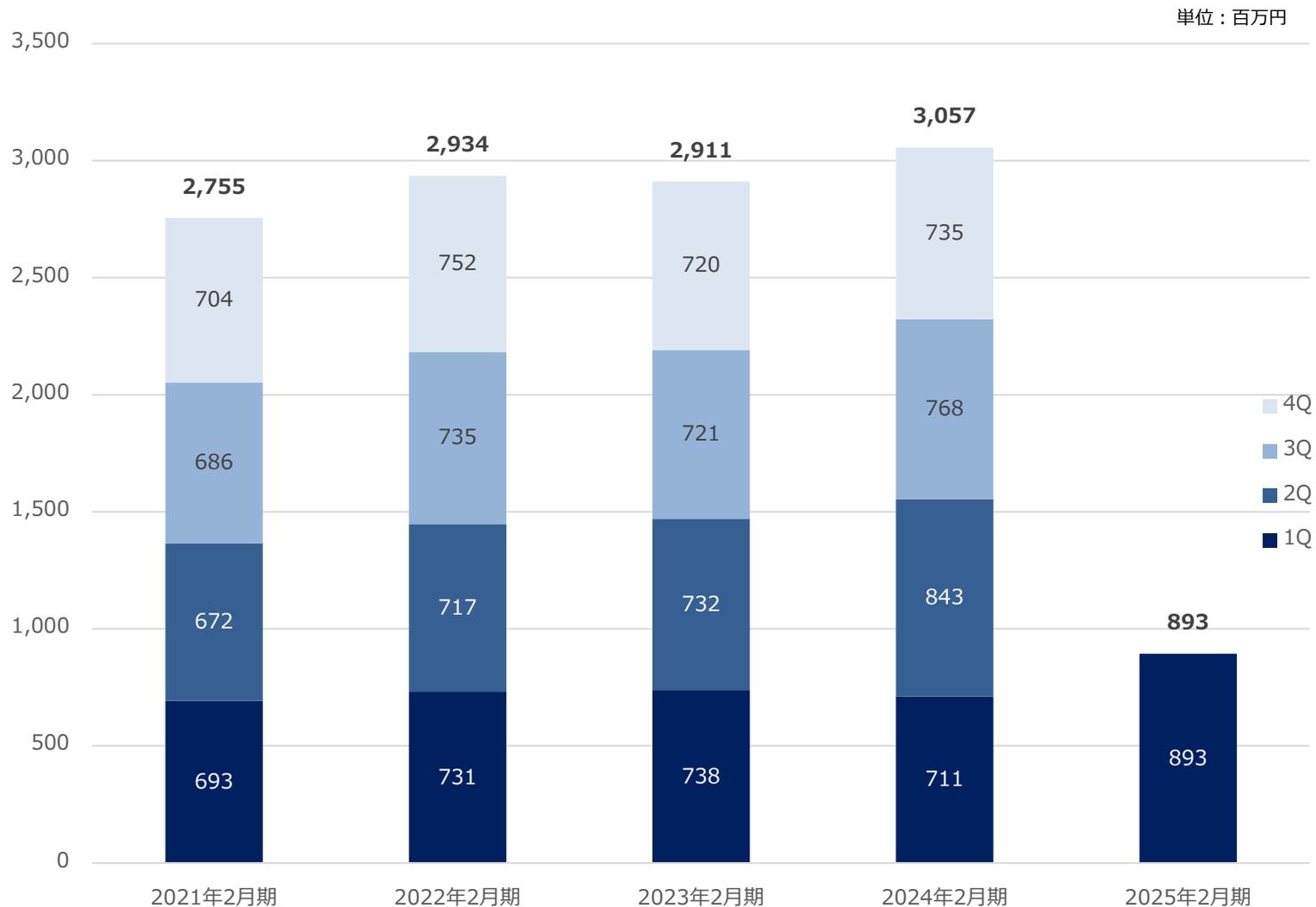
- ・売上高は対前年同期比で+25.6%となった。
- ・営業利益については売上増加、減価償却費用の縮小により+79.9%となった。

AI事業受注高推移



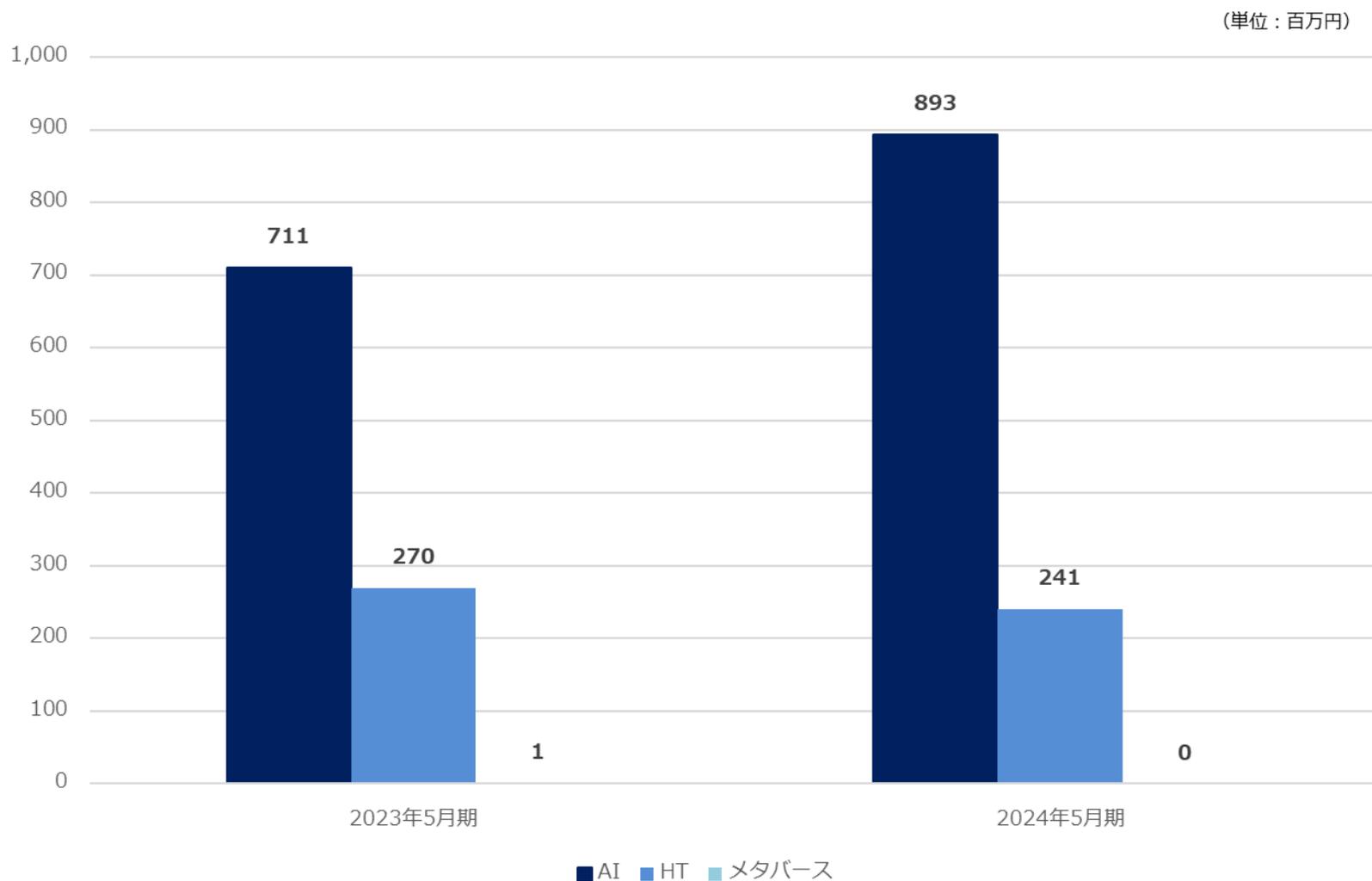
- 2024年2月2Qより「MT事業」は「AI事業」と改名。
- 受注ベースでの売上推移（財務諸表上の売上ではない）。
- 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）。

AI事業売上高推移

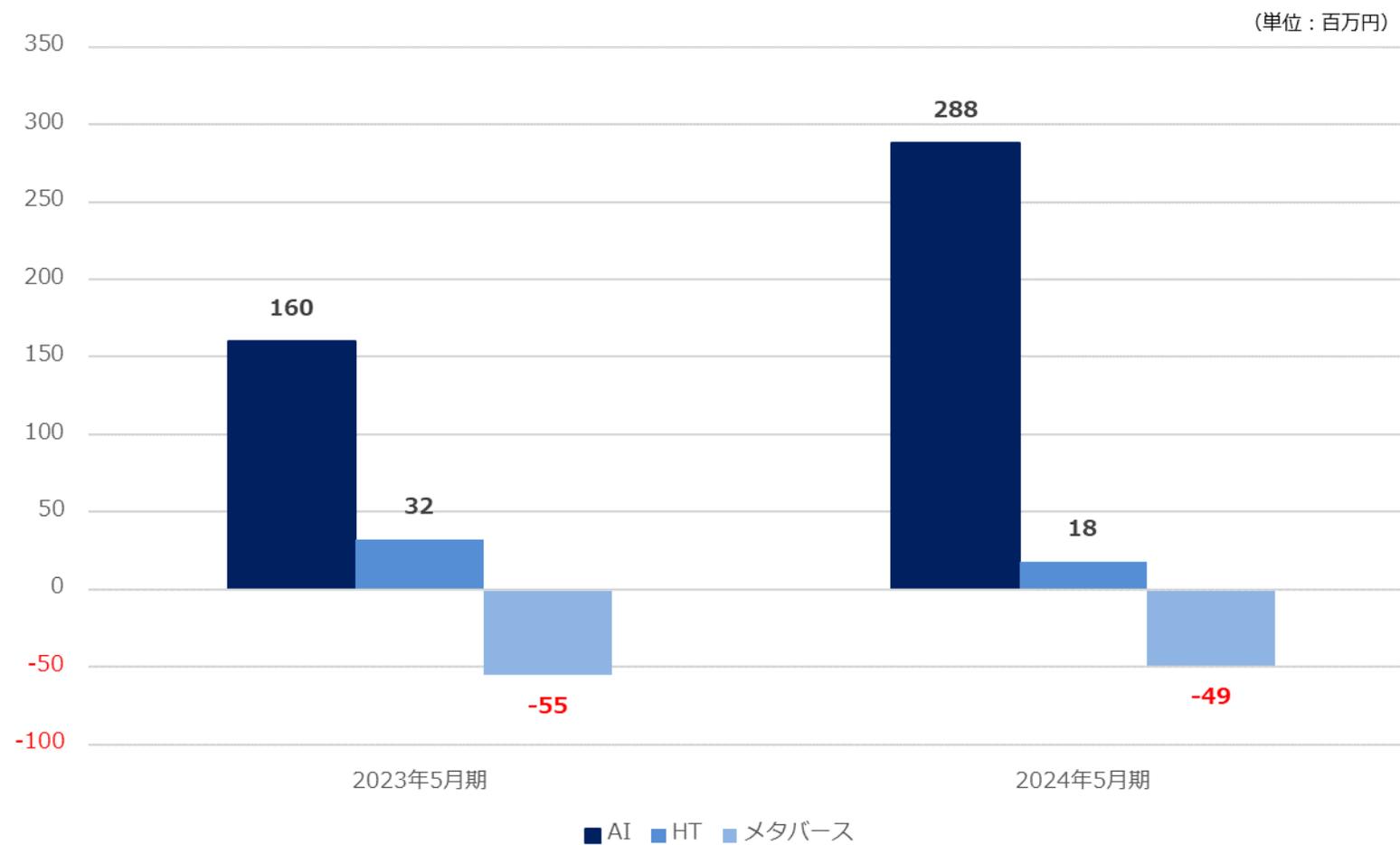


- ・ 2024年2月2Qより「MT事業」は「AI事業」と改名。
- ・ 外部への販売数値のみ（グループ内部取引による売上を除く）。

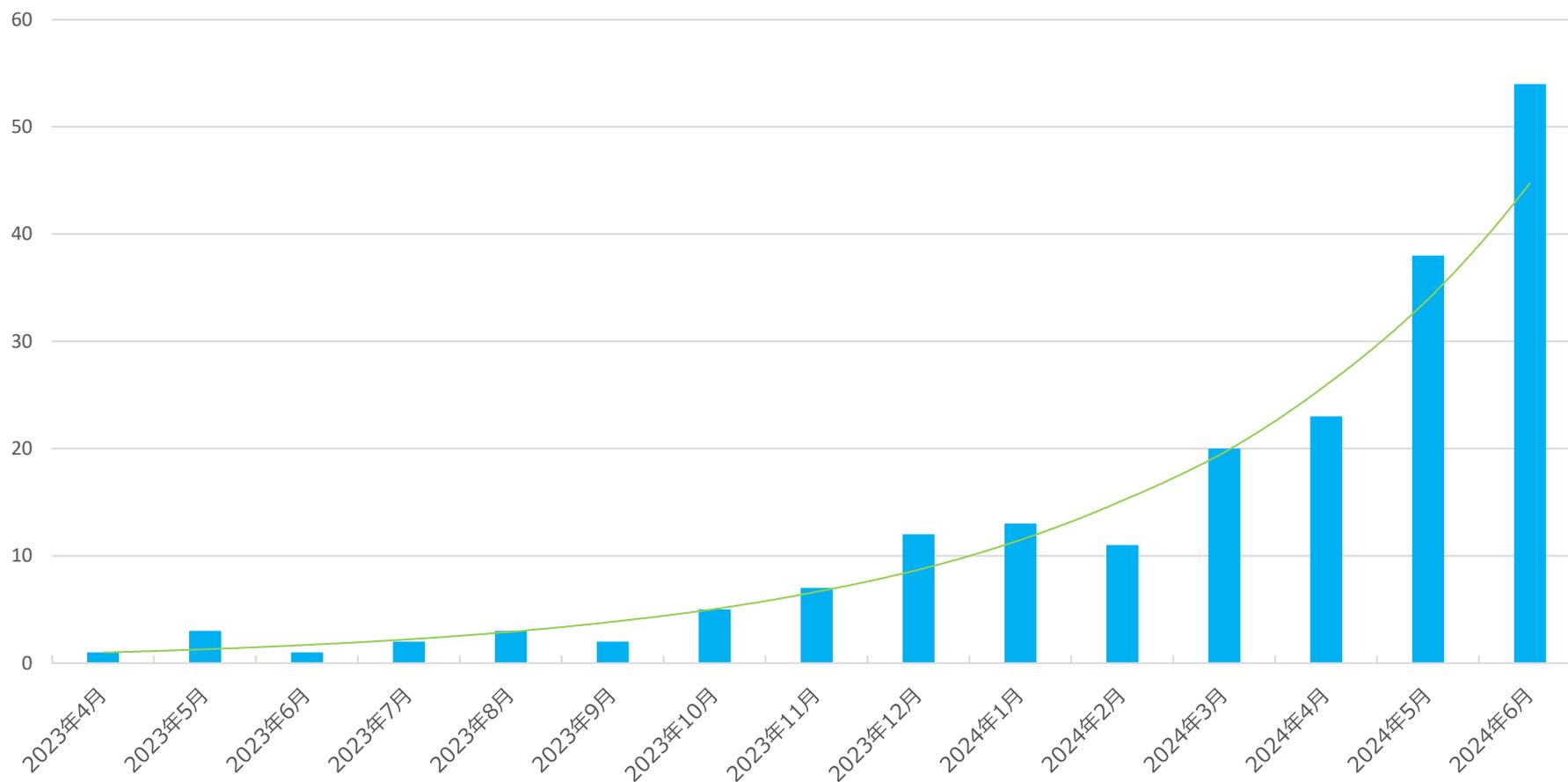
セグメント別売上高 前年同期比較



セグメント別営業利益 前年同期比較



AI事業におけるマーケティング投資の効果 (Metareal AI 新規有効商談数推移)

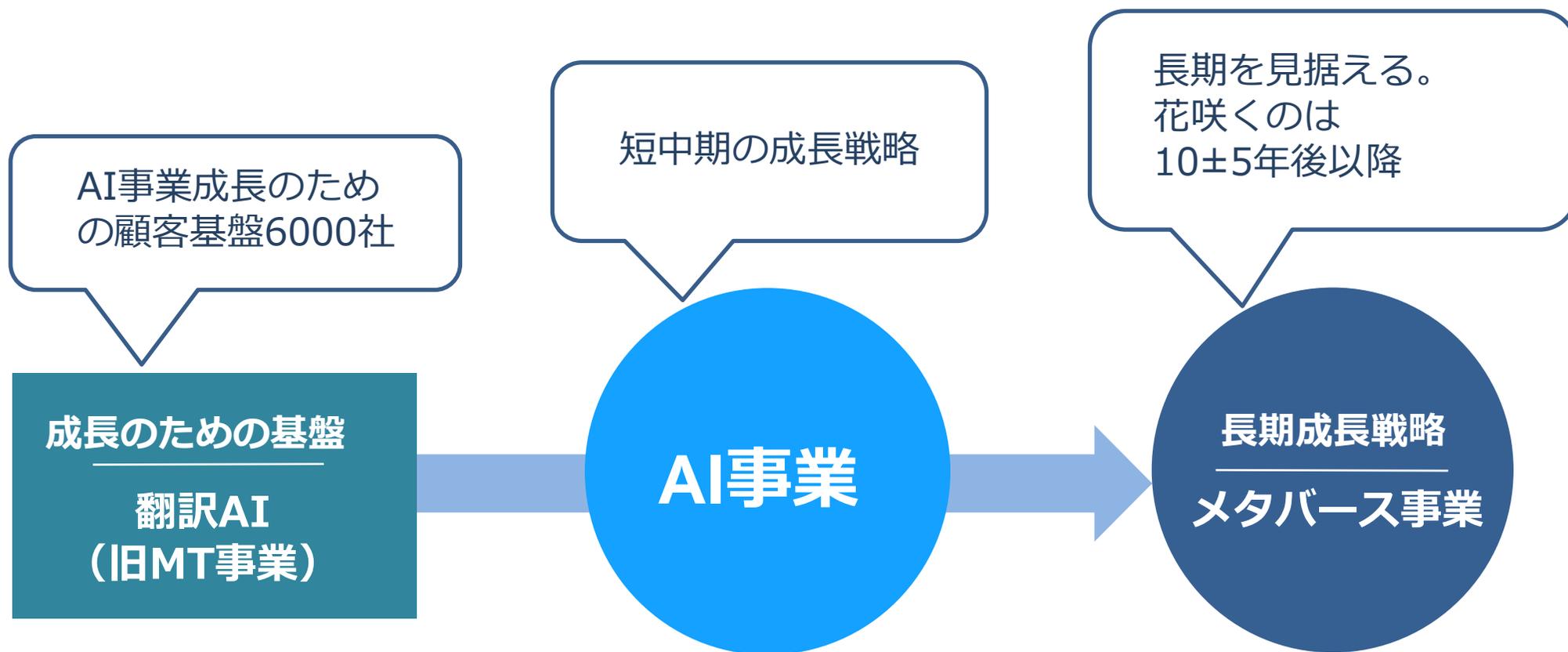


※ Metareal AI 新規有効商談とは

- ・ 受託開発に限定したもの
- ・ 文書生成AIを主としたMetareal AIに限定した新規商談であり、AI自動翻訳の商談は含まない
- ・ 明確な開発需要が認められる商談のみを対象とし、調査や漠然とした相談等の商談は含まない
- ・ 前期有効商談件数62件、受注件数11件、受注金額アベレージ1,809万円



成長戦略（全体）



3年後に売上100億円を目指す

【中期】 AI事業は昨年様々な試行錯誤を重ねた結果、勝算（需要が確実にあり、かつ当社に優位性がある領域）が確定できた。当社のMT事業（AI翻訳）での特長である「業界特化の専門分野文書への領域絞り込み」を生成AIでも行うという方向である。AI事業での成長に確信が持てたことから、今期の経営方針は利益最大化から成長加速に優先を切り替え、AI事業の売上拡大のための思い切った先行投資を行い、3年後（2027年2月期）の連結売上100億円を目指す。^(*1)

【長期】 10年以上の長期スパンでは「AI×メタバース」で売上1000億円以上を目指し^(*2)、ミッション第4章「人類を物質世界から解放する（MU事業: Mind Uploading）^(*3)」へと進む。

*1 内訳はAI事業90億円、HT事業10億円。メタバース事業は長期戦略のため3年内での目標は持たない。AI市場は不確定要素が多いため、数値の内訳・根拠を示しての中長期計画としてではなく、目標としての表明に留める。AI事業の目標設定に至った背景と前提となる仮定条件は14-16頁参照。AI事業の先行投資額は2024年2月期連結営業利益が半減する程度（約3.5億円減）までを想定。

*2 10年以上の長期スパンでは、メタバース事業が半分以上を占めると想定。目標の前提となる仮定条件は46-48頁参照。メタバース事業は10年±5年の長期戦略として、当面年間約2億円の先行投資を続ける。

*3 Mind Uploading: 意識のアップロード。人の意識・精神をコンピュータに転送する技術。不老不死。

AI事業の中期目標

ChatGPTの登場によりAIを取り巻く環境が大きく変化した今、AI事業をこれまでのキャッシュカウから脱却させ、新たなスターを作り上げるタイミングが到来。

短中期の目標値として、AI事業は今後3年間で前期売上30億円から90億円への成長を目指す*。この売上成長を達成するために人材拡充・マーケティング・設備等に対し積極的投資を行う。

売上構成においてはこれまでの中心であったSaaSプロダクト開発・販売に新たな柱として受託開発を追加することにより、顧客定着率が安定した固定売上と案件規模の大きい変動売상을両立させ高成長を作り上げる。

今後もAI市場環境は短期間に著しい変化を伴い、様々な規制が入る可能性もあるが、AI市場が縮小することは考え難いため様々な変化に柔軟に対応できる組織構築を行い短中期成長を成し遂げる。

*AI市場は不確定要素が多いため、数値の内訳・根拠を示しての中長期計画としてではなく、目標としての表明に留める。

中期目標設定に至った背景

ChatGPTの登場により世界のビジネス環境が大きく変化し、各企業が積極的にAIの活用を模索するというトレンドが鮮明になってきた。

この競争の激しいAI市場における当社のポジションを確立するために前期1年間、プロダクト投下や顧客の課題調査等様々な試行を重ねた結果、製薬業界を始めとした業界特化型の「専門文書AI」の需要が高いことを確信することができた。

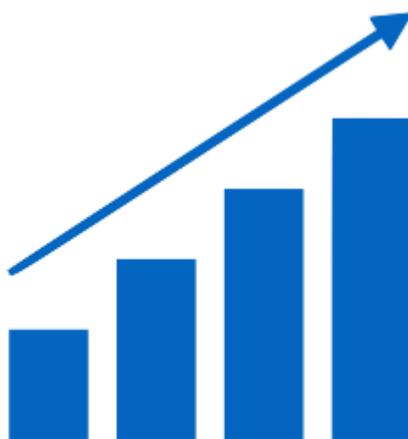
また、多くの企業がAIを導入すること自体をテーマに置いてしまい導入効果を明確に認識できていない事象が多発している中、企業が実務で本当に使えるAIを昨年開発し、導入効果を確実に顧客に提供できた実績も当社のAI市場における方向性の正しさを確信する一つとなった。

これらの活動にともなって着実に商談件数も増加し（10頁参照）、当社が成長に確信を持てる状況になったと判断したため、目標を発表することとした。

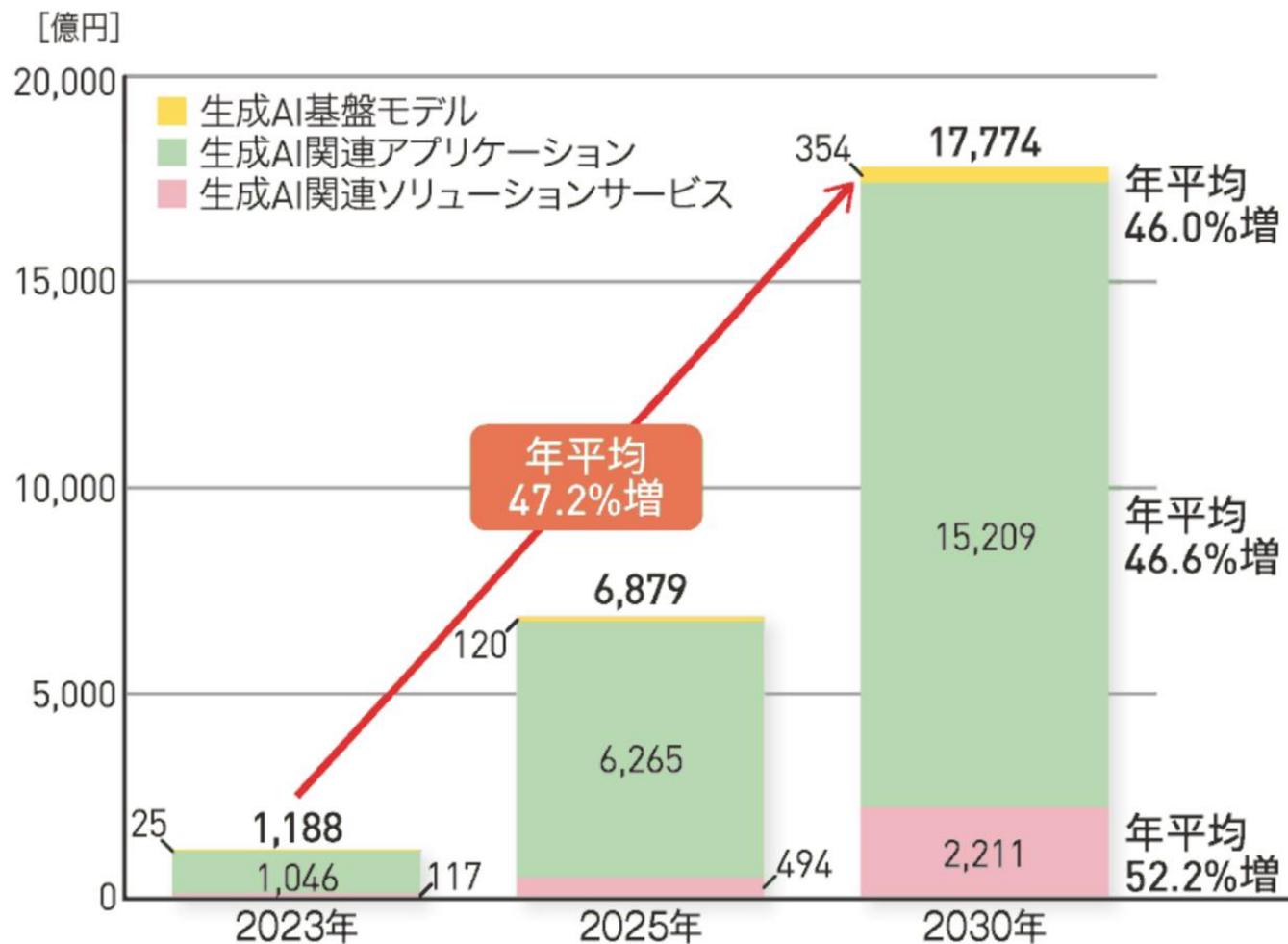
中期目標達成の前提となる仮定条件

日本国内におけるAI市場規模は2023年1,188億円から2030年1兆7,774億円と年平均47.2%の成長が見通されている（17頁参照）。

この市場成長に対し、7年間で30億（年平均成長率41.17%）のプロジェクトへと成長した「AI翻訳」と同様に「専門文書AI」で複数の強いプロジェクトを開発すると同時に受託開発案件を更に増やすことによってAI事業の成長（年平均成長率44.2%）を目指す。



生成AI市場の需要額見通し(日本)



出展：JEITA発行『注目分野に関する動向調査2023』



成長戦略（AI事業）

6000社の顧客基盤に対し、生成AIをシームレスに提供する準備が整った

旧MT事業（AI翻訳）で培った

6000社

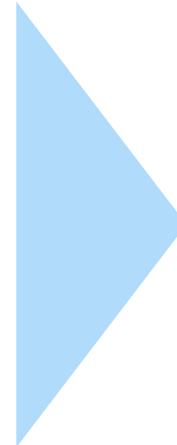
の顧客基盤

×

この1年間

「Metareal AIプロジェクト」を通して

深化させてきた 専門文書における AI化技術



顧客基盤

を活用して、

生成AIをシームレスに提供する

準備が整った。

AI翻訳で成功した差別化

「業種特化の専門文書」への
絞り込みを生成AIでも行う

世間のほとんどのAIは
ChatGPTのような
汎用のAI

Google翻訳等の一般的なAI翻訳との違い

ポジショニングが違う

一般 = 汎用 (One fits all)

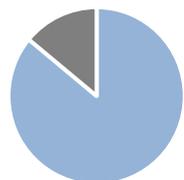
当社 = 業種特化の専門文書の翻訳 (2000分野)
に細かく対応

- ⊕ 医薬・化学・環境
 - ⊕ 医学
 - ⊕ ライフサイエンス
 - ⊕ 薬事
 - 一般情報・特性
 - ⊕ CMC
 - ⊕ GMP
 - ⊕ 非臨床
 - ⊕ 臨床
 - ⊕ 製造販売後
 - ⊕ <<薬事定型文書>>
 - <<添付文書>>
 - <<治験薬概要書 (IB)>>
 - <<インタビューフォーム (IF)>>
 - <<治験実施計画書>>
 - <<治験総括報告書 (CSR)>>
 - <<治験成績概要書>>
 - ⊕ <<CTD>>
 - <<症例報告書 (CRF)>>
 - <<個別症例安全性報告 (CIC)>>
 - <<個別症例安全性報告 (CIC)>>
 - <<PSUR (CIOMS-II)>>
 - <<治験相談>>
 - <<照会>>
 - <<申請手続書類>>
 - <<薬事定型文書>> (その他)
 - ⊕ 【公的文書(薬事行政)】
 - ⊕ 薬事法務
 - ⊕ 医療機器薬事
 - 薬事(その他)
 - ⊕ 医療機器
 - ⊕ 化学
 - ⊕ 環境
 - ⊕ 食品
 - ⊕ 農林水産
 - 特許 (医学・バイオ・化学)
 - 医薬・化学・環境 (その他)
 - ⊕ IT・機械・電気電子
 - ⊕ ビジネス専門
 - ⊕ 人文・社会

AI翻訳導入6000社を生成AI事業成長の基盤とする

導入企業の割合（日経225選定企業）

医薬・化学・食品分野



86 %

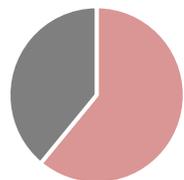
三菱ケミカル

AsahiKASEI

JT **サントリー**

etc.

電気・機械・精密機器分野



61 %

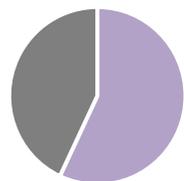
OLYMPUS

RICOH

富士電機

etc.

鉄鋼/金属/非金属・繊維分野



57 %

住友電工

三菱マテリアル

TEIJIN

etc.

※主な導入企業（敬称略）

医薬	エーザイ、協和キリン、塩野義製薬、住友ファーマ、第一三共、中外製薬、武田薬品工業、沢井製薬、田辺三菱製薬、サノフィ、大塚製薬、日本新薬、科研製薬、ロート製薬、久光製薬、生化学工業、栄研化学、バイエル薬品、日本イーライリリー、アステラス製薬、グラクソ・スミスクライン、ロシュ・ダイアグノス、ティックス、アラガン・ジャパン、他
化学・食品	キリン、宝HD、日本ハム、日本たばこ産業、日東電工、日産化学工業、信越化学工業、信越ポリマー、住友化学、資生堂、旭化成、ニチレイ、三菱ケミカル、JSP、ADEKA、ポラテクノ、他
電気機器	ヒロセ電機、NEC、オムロン、京セラ、JVCケンウッド、シャープ、東芝、日本電産サンキョー、バイオニア、日立製作所、富士通ゼネラルエレクトロニクス、古河電気工業、三菱電機、村田製作所、富士フイルム、他
機械	IHI、川崎重工業、島津製作所、住友重機械工業、ダイキン工業、椿本チエイン、日機装、日立造船、三菱重工機械システム、他
精密機器	オリンパス、シチズン時計、コニカミノルタ、テルモ、ニコン、住友精密工業、HOYA、他
繊維	東洋紡、帝人、東レ、ナイガイ、他
輸送機器	日産自動車、日野自動車、本田技研工業、三菱自動車、マツダ、他

① 分野毎の専門用語の 正しさが求められる

(例：製薬CMC分野: identification ×同定 ○確認試験: description ×記述 ○性状)

② 参考文書（業界ガイドライン等）との用語・表現の整合性チェック

(例：新薬申請文書: ICHガイドライン)

③ 過去翻訳（類似文書）との用語・表現の整合性チェック

(例：類似薬品の過去申請文書)

専門分野対応

2000分野専門用語と 業界毎ガイドライン収録

例：新薬申請文書・ICHガイドライン

整合性チェック

参考文書

ガイドラインや過去文書等との整合性をチェックするための編集ツール

製薬

新薬承認申請資料
等

製造

製品取扱説明書
等

特許

特許明細書
等

金融

有価証券報告書
等

法務

契約書
等

文書の量が大量にあるのが特徴

1

各種分野での専門文書を扱う実ニーズと顧客基盤

製薬、製造、金融、法務等、各種分野の専門文書を扱う
実際のニーズを持つ顧客6000社の基盤

2

顧客企業が自社の専門文書を既に登録している

生成AIビジネスにおける最大の難関＝顧客側での
自社データの整理が既にできている状態

「T-400」のルール・統計ベースのアルゴリズムをすべて生成AIに切り替える

「翻訳」と「文書作成」全般の共通点

整合性チェック（参考文書や過去文書との整合性）に大変な手間と労力がかかるのが大きなペイン

情報表示から対話型へ

整合性チェック画面では
コックピット計器のように各種情報を表示
↓
「WORD」のコメント機能で専門家と
やり取りするようにAIと対話しながら

今年6月
実装済

T-400において、生成 AI
翻訳による業種・分野ごと
の対応が可能になった



来期1Q

T-400の文書作成全般AI化
バージョンをリリース

**この1年間
「Metareal AI」プロジェクト
を通して深化させてきた
専門文書におけるAI化**

専門文書AI

によるDX推進事業への集中

医薬・製造・法務・特許・金融 等
分野ごとに必要となる
「ドキュメントマネジメント × AI」

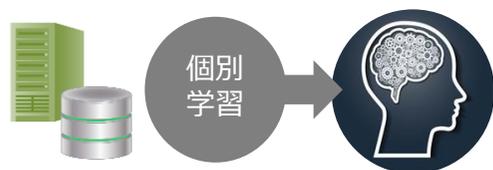
ロゼッタは何故、生成AIを用いた 専門文書AIサービスを構築できるのか

AI自動翻訳と生成AIのベースとなるアーキテクチャは同じである

*LLM = Large Language Models

今までの「自然言語処理モデル」

少量のデータで個別タスクを学習



教師データを
ディープラーニング



AI自動翻訳における
自然言語処理モデル

Transformer

GPTなどの「大規模言語モデル（LLM*）」

分散表現とセルフアテンションで、同時に複数タスクを処理



事前
学習

追加
学習



個別の学習データを

- Fine tuning
- Embedding

- ・大規模データ
- ・計算量の大規模化
- ・パラメータ数の大規模化

人間に近い流暢な会話や
高精度な処理の実現

LLM
(大規模言語モデル)

+

要素
技術

=

様々な生成AI
ソリューションの開発

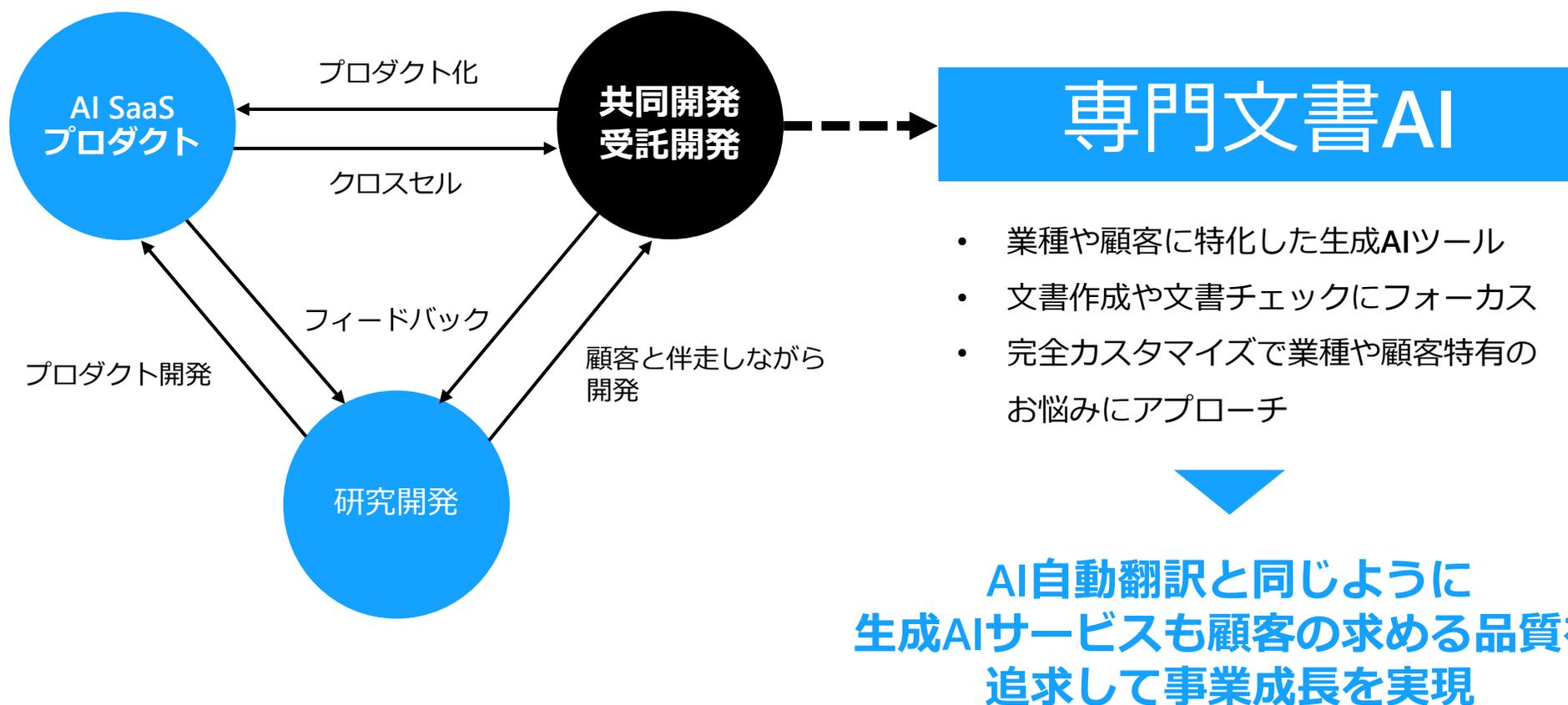
Transformer

- ・資料生成AI
- ・文章校正AI
- ・文書要約AI
- ・大容量プロンプトAI
- ・顧客要望に応じたAI
- ・オンプレ環境でのAI運用構築 等

AI自動翻訳の開発においてモデルを作り続けてきたロゼッタだからこそ生成AIを事業化することが可能

ロゼッタの専門文書AIサービスの方向性

顧客の求める品質を追求する開発



生成AI関連の開発における当社の強み

モデル開発からフロントエンド（営業・サポート）まで一気通貫で対応

1 LLMの開発 (大規模言語モデル)

LLM（大規模言語モデル）の自社開発が可能

- ・膨大なデータセットと、精度の高いカスタムエンジンやLLMのベースモデルを開発する技術を保有
- ・お客様のセキュリティポリシーに応じたLLMの選定・ご提案が可能



2 オンプレAIの ロゼッタ

LLMを自社開発できるため、オンプレ環境における生成AIサービスの提供が可能

- ・日本国内やお客様の社内という閉域に物理的サーバを用意しLLMを置くことが可能
- ・AI自動翻訳における「オンプレ型国内サーバー」で膨大な顧客データを安全に取り扱ってきた実績



3 高度なAI開発技術

ロゼッタ開発チームの高度な技術

- ・AIが最適な答えを返すように「RAG」と呼ばれるフレームワークでハルシネーションを抑制
- ・CoTプロンプティング技術において複数のプロンプトを組み合わせ、複雑な結果を抽出することが可能



4 スピード

決断と実行におけるメタリアルグループの圧倒的なスピード

- ・生成AIサービス事業開始の2023年4月から約4か月間で、多くの製品を開発・リリースした実績
- ・スピードが早い故に、他社に先んじて膨大な知見を蓄積



専門文書AI

- NVIDIAカンファレンス
- 整合性チェッカー
- ラクヤクAI
- キャラクターAI翻訳エンジン
- オンプレ音声認識
- 四季報API
- MAI LLM 2

JellyBeans.ai

NVIDIAカンファレンスに登壇

NVIDIAカンファレンスにて、当社の推進する専門文書AIの多様な事例を紹介。AIによる事業活用の可能性を広く示しました。

NVIDIA注目の専門文書AI

AI翻訳事業で培った知見を活かし、企業の生成AI導入を推進する当社の取り組みをきっかけとして、世界的AI企業であるNVIDIAのカンファレンスに参加。専門文書AIの多様な事例を紹介し、AIによる事業活用の可能性を広く示しました。

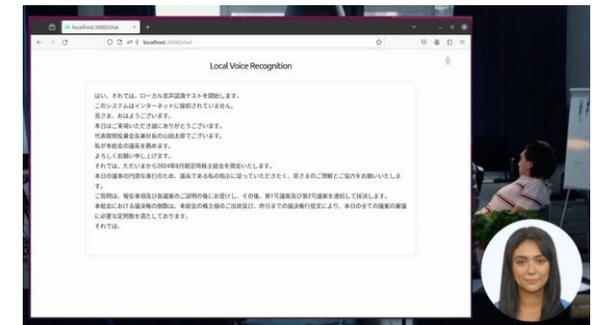
専門文書AI事例を世界発信

整合性チェッカー、キャラクター性を含んだ翻訳AI、オンプレミス音声認識エンジンなど様々な事例を取り上げ、AIによる専門文書処理の可能性を強調。これまで当社がAI翻訳事業で培ってきた知見と技術を応用し、企業の生成AI導入を支援する中で生み出されたものです。

AI翻訳から専門文書AIへ

当社は、AI翻訳のノウハウと技術を活かして企業の生成AI導入を総合的に支援しています。特に、各企業の業務や取り扱い文書の特性を深く理解し、最適なAIモデルの開発・調整を行っています。

- ・ 整合性チェッカー：文書内の情報の整合性を自動的に検証するシステムを構築
- ・ 翻訳AI：単なる言語変換を超え、ニュアンスやキャラクター性を保持する高度な翻訳を実現
- ・ 音声認識エンジン：企業内のセキュリティを確保し、高精度な音声認識を可能にするオンプレミス型のシステム提供 等



当社の整合性チェッカーは、LLMと顧客課題解決力を融合。膨大な文書管理に苦慮する企業の作業効率を飛躍的に向上し、文書管理のDXを加速します。

AIの力で煩雑な書類チェックから解放。AIが開く、文書管理DXの新時代へ。

検証状況の出力

検査対象PDF

高速整合性検証 作業効率化



ターゲット文書と大量の参照文書の間での整合性をLLMで双方向に吟味することで、様々な検証作業の自動処理が可能に。

特定文書と参照文書群の整合性を高速検証する「整合性チェッカー」を開発。製薬、建築、土業など、膨大な文書管理に悩む企業の課題解決を目指しました。

整合性チェッカーは、LLM活用と共に、当社の顧客課題解決力を発揮して実現。先進技術と現場知見の融合により、複数人で数日かかる作業を最短1分で完了。並列処理で更なる効率化を図ります。

文書管理を変革しDX推進

文書管理のDXを加速する画期的な技術により、膨大な時間とコストを費やしてきた整合性検証を自動化します。作業効率の飛躍的向上、コスト削減と人的ミス防止、大規模検証の実現により、文書管理の質を格段に向上します。確認前処理の用途でも大きな成果が期待でき、企業のDXを強力に推進。文書管理のあり方を大きく変革する重要な技術となります。

#ステップ1
抵触なし

検証情報

損害額、補償範囲/期間/内容については、両テキストに具体的な記載がないため、これらの項目に関する拡張は示されていません。合意管轄に関しては、両テキストともに東京地方裁判所を専属的合意管轄裁判所としているため、拡張は示されていません。

#ステップ4
1/5

参照データ一覧

- Reference path 1: 利用規約.pdf
- Reference path 2: general_agreement_sample.pdf
- Reference path 3: 利用規約.pdf
- Reference path 4: general_agreement_sample.pdf

*第5条 管轄 本覚書に関して生じた一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

Page 1

- Explanation: # ステップ1
矛盾なし

#ステップ2
抵触なし

#ステップ3
損害額、補償範囲/期間/内容については、両テキストに具体的な記載がないため、これらの項目に関する拡張は示されていません。合意管轄に関しては、両テキストともに東京地方裁判

自動翻訳T-400グループ企業利用に関する覚書

株式会社〇〇〇〇（以下、「甲」という）と株式会社××××（以下、「乙」という）は、甲が2020年3月18日に利用申請をした乙が運営する自動翻訳サービス「T-400」（以下、「本サービス」という）の利用について、以下の通り覚書（以下、「本覚書」という）を締結する。

第1条 目的

本覚書は、本サービスの利用規約の規定にかかわらず、乙が、本サービスの契約主体である甲に対し、株式会社〇〇〇〇による本サービスの利用を認めることを目的とする。

第2条 利用規約

本サービスの利用規約は、株式会社〇〇〇〇による利用についても適用されるものとする。

第3条 効力発生日

1. 本覚書は2024年3月31日より効力を発するものとする。
2. 前項にかかわらず、甲および乙は、相手方に対し、3か月前に書面による通知をすることにより、本覚書を解除することができる。

第4条 損害賠償

乙は、甲または株式会社〇〇〇〇が本覚書に違反した場合、甲に対し、当該違反により生じた損害について損害賠償請求することができるものとする。

第5条 管轄

本覚書に関して生じた一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

第6条 準拠法

本覚書は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈されるものとする。

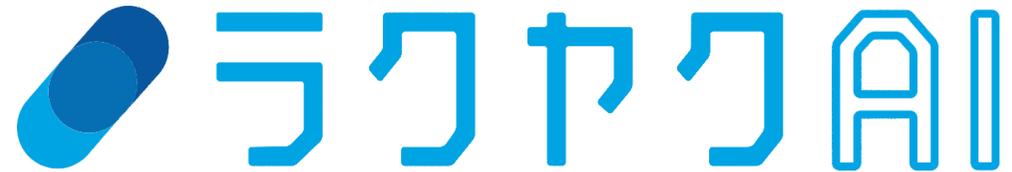
製薬企業の審査文書や論文の整合性確認を強力にサポートする文書処理AIを開発。製薬業界特有の膨大な管理負荷を大幅に削減し、生産性向上を実現します。

「整合性チェッカー」事業活用例：
審査文書・論文等の膨大な整合性チェックを自動化

LLM×製薬 高精度整合性検証

製薬業界に特化	製薬業界に特化したサービスのため、創薬における文書作成など製薬業界特有の業務に対応。御社内のデータはもちろん、業界の専門用語やルールにも対応し、正確なアウトプットを実現します。
御社専用のセキュアな生成AI環境	御社専用の生成AI環境をご提供。業界の基礎情報に加え社内の膨大な資料やデータを活用することで、御社内の知見を統合的に分析し集約されたアウトプットをセキュアな環境で実現します。
正確かつスピーディなアウトプット	これまでにかかっていた大量の時間とリソースを大幅に削減しながら、膨大なデータを元にした正確なアウトプットを実現します。

当社の**整合性チェッカーの技術**を応用し、LLMと製薬業界知見を融合。審査文書や論文に特化した高精度の整合性検証を実現し、大量の文書を高速処理します。従来手作業で行われてきた審査文書や論文の整合性確認を自動化することで、研究開発や薬事申請といったコア業務により多くのリソースを割くことが可能になります。

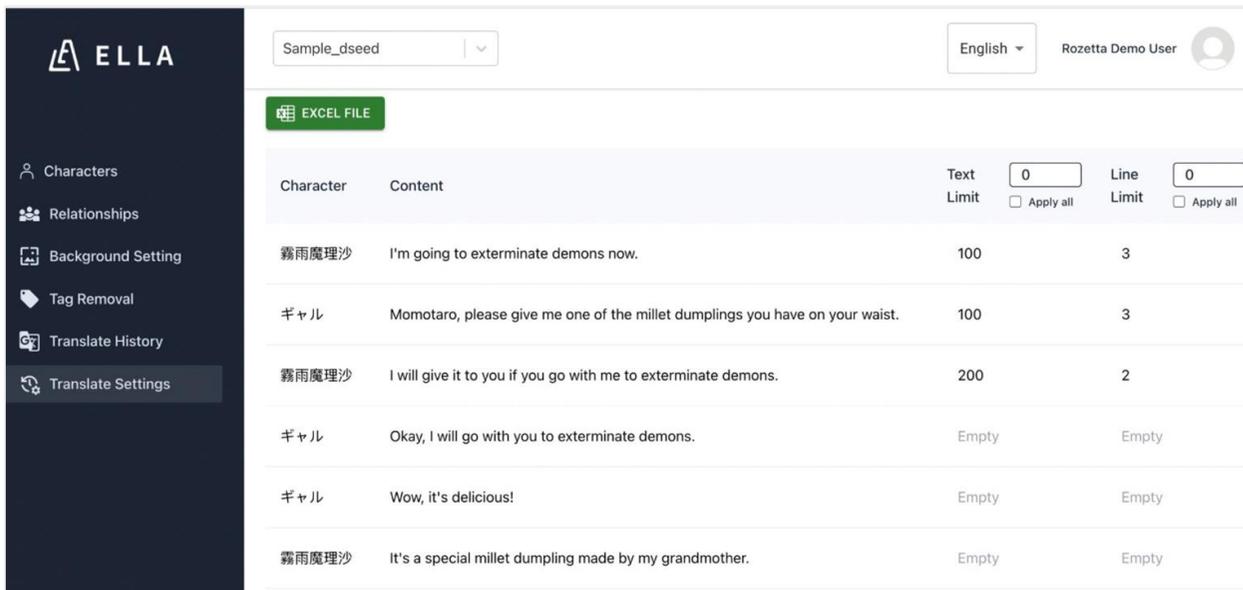


「ラクヤクAI」とは

社内のあらゆる文書やデータ、社外で公開されている論文やルールを活用して、文書や資料の自動生成、文書チェック、モニタリングなどを可能にし、圧倒的な業務スピードの改善を実現するシステムです。

文書・資料の自動生成 治験関連文書や薬剤プロモーション資料などを自動生成します。	整合性チェック 作成した資料のクオリティチェックを実施。ヒューマンエラーを無くし作業時間を大幅に軽減します。
講演内容モニタリング 講演資料や講演音声のモニタリングを行い、適用外表現を自動でチェックします。	薬剤情報やナレッジの検索 薬剤の情報やナレッジを調べると検索結果として返します。

高精度クリエイティブ翻訳キャラクター翻訳AI 「ELLA」を株式会社デジタルハーツ様と共同開発



(株) デジタルハーツ様とロゼッタで共同開発した新AI翻訳エンジンは、長年のAI翻訳開発経験と生成AIを融合したクリエイティブ翻訳AI。

参考記事リンク

<https://rozetta-square.jp/news/7258/>

実際のキャラ翻訳例

英語原文：ゾンビ

I look forward to working with you in the future.

日本語訳文

ウォレ、ウォマエと..
ガッ..これからも..モオン.
仕事..ヴァッ..楽しみ..
ンツ!

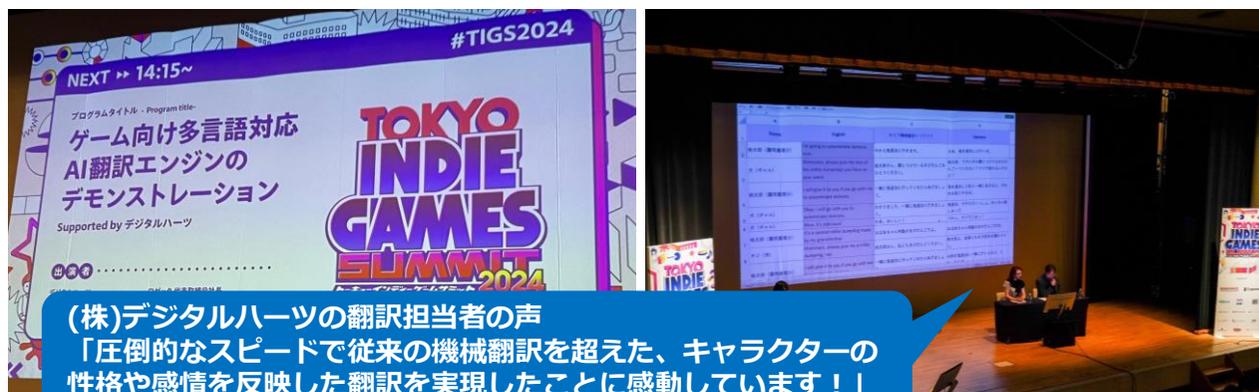
日本語原文：魔王

これからもよろしくお願
いします。

英語訳文

**Bow to the future
where you shall
grovel at my feet, for
our fates are yet to
be entwined.**

ELLAは、ロゼッタのAI翻訳ノウハウと生成AIを融合し、膨大なキャラクター対話データから学習。文脈に応じた語彙選択や話し方の変化を再現します。従来の機械翻訳では不可能とされていたクリエイティブ分野で、キャラクターの性格や感情を反映した翻訳を実現しました。



オンプレ音声認識が開く、安全なAI活用の扉。機密情報も安心、ニーズに合わせて柔軟に。

当社のオンプレ音声認識エンジンは、ネットワーク接続なしでローカルPCのみで高精度認識を実現。企業ニーズに合わせたカスタマイズで、機密情報を扱う会議での活用を可能にします。

安全・高精度のオンプレ音声認識

当社の高度な音声認識技術をベースに、ネットワーク接続を必要としないローカルPCで動作する設計を実現。PC単体での高精度認識に加え、企業ごとの用語などにもカスタマイズ可能。機密情報を扱う環境での安全かつ柔軟な活用を可能にしました。

機密会議にも、AIによるDXを

オンプレ音声認識エンジンは、AIの活用範囲を大きく広げる革新的な技術として、情報漏洩リスクから活用が難しかった機密情報を扱う会議などでの音声認識を可能にし、議事録作成の効率化や会議の生産性向上に寄与。

さらに企業ニーズに合わせた高いカスタマイズ性がAIの柔軟な活用を促進し、音声入力インターフェイスの革新によりPCでの文書作成やデータ入力の利便性を大きく向上。ビジネスのDXを加速する重要な一手となります。

参考動画リンク

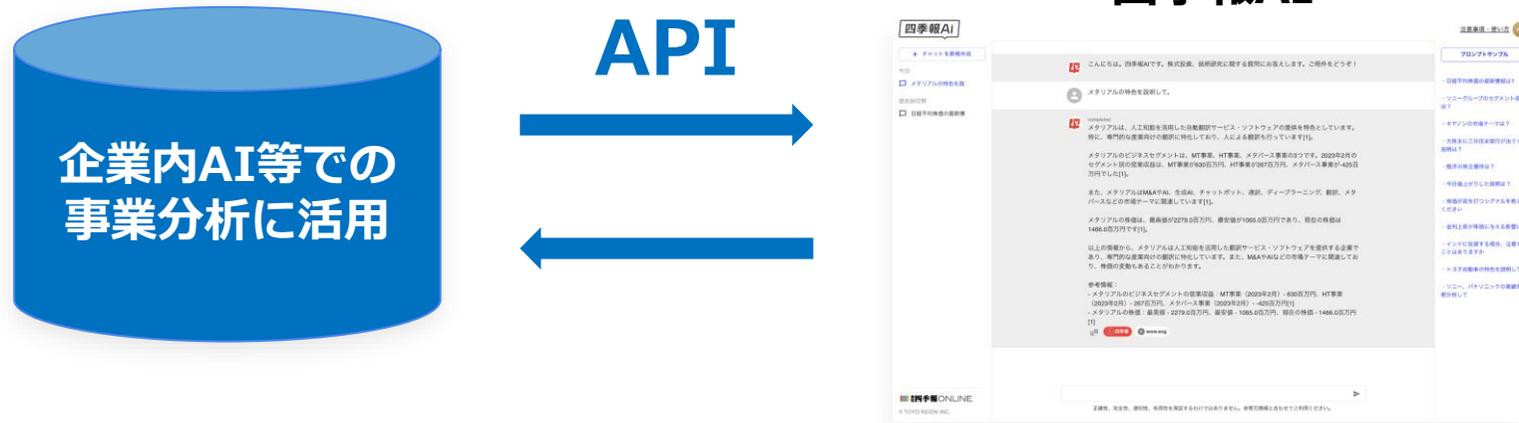
<https://www.youtube.com/watch?v=rj0v7ZR5QVI>

Local Voice Recognition

はい、それでは、ローカル音声認識テストを開始します。
このシステムはインターネットに接続されていません。
皆さま、おはようございます。
本日はご来場いただき誠にありがとうございます。
代表取締役兼会長兼社長の山田太郎でございます。
私が本総会の議長を務めます。
よろしくお願ひ申し上げます。
それでは、ただいまから2024年8月期定時株主総会を開会いたします。
本日の議事の円滑な進行のため、議長である私の指示に従っていただきたく、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。
ご質問は、報告事項及び各議案のご説明の後にお受けし、その後、第1号議案及び第2号議案を連続して採決します。
本総会における議決権の個数は、本総会の株主様のご出席及び、昨日までの議決権行使文により、本日の全ての議案の審議に必要な定数数を満たしております。
それでは、報告事項の



四季報AIのAPI提供で革新的な事業分析を実現。生成AIとの連携で、企業情報活用の新時代へ。



当社と東洋経済新報社様が共同開発した「四季報AI」がAPI接続可能になりました。企業の社内生成AIによる事業分析に信頼性の高い市場データを統合し、事業戦略立案の精度向上と競争力強化を実現します。

四季報AI API 外部接続開始

東洋経済新報社と提携し、「四季報AI」へのAPI接続提供を開始。四季報AIの膨大な企業情報と市場情報のAIによる分析結果を利用可能になりました。生成AIによる事業分析に市場データを統合し、事業分析に大きな革新をもたらします。

市場データ分析 × 専門文書AI

当社専門文書AIとの知識融合により、業界特有の知見も活用した多角的な分析を実現。専門文書AIソリューションが、AI活用による企業経営の高度化を強力に支援します。事業成長を加速させ、競争力強化に貢献することで顧客企業のDXを推進し、新たな価値創造を支えます。

Metareal AI LLM 2 - 複数モデルの連携で実現する、 企業の課題解決に特化した次世代AIオーケストレーションシステム

Medical LLM

N こんにちは。私は、主に製薬関連の学習をしたAIアシスタントです。ご用件をどうぞ。

U 心房細動患者におけるアスピリンの脳卒中予防効果は、直接作用型経口抗凝固薬（DOAC）と比較してどの程度か？詳細な検討をして回答してください。

N choosing model using langrila...
わかりました。この問題に対して詳細な検討を行いますので、少々お待ちください。検討結果は後ほど提示させていただきます。

私の速やかな調査の結果、以下のことが分かりました。

心房細動患者における脳卒中予防において、アスピリンよりも直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の方が効果的であると示されています。DOACsは出血のリスクが低く、ワルファリンと比べても優れている可能性があります。しかし、高齢者ではアスピリンとDOACsを比較した場合、DOACsの方が出血リスクが高い可能性もあります。

この件に関する包括的な医学論文は次のとおりです。

【心房細動患者における抗凝固療法の比較】

序論 心房細動は脳卒中の主要なリスク因子であり、適切な抗凝固療法が予防に重要である。従来はワルファリンが第一選択薬とされてきたが、近年直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の使用が増加している。

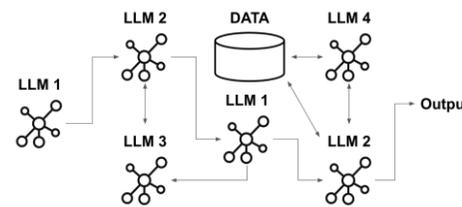
DOACsとアスピリンの比較 複数の臨床試験において、DOACsはアスピリンより脳卒中予防効果が高いことが示されている。DOACsはまた、ワルファリンよりも出血リスクが低い可能性がある。一方、高齢患者ではDOACsの方がアスピリンよりも出血リスクが高くなる可能性があり、慎重な評価が必要である。

まとめ 全体としてみると、DOACsは心房細動患者の脳卒中予防においてアスピリンより優れている可能性が高い。しかし、個々の患者においては、年齢、合併症、薬物相互作用などのリスクを慎重に評価し、最適な治療法を選択することが重要である。

以上が速やかな調査からの結論ですが、この問題についてはさらに広範な情報収集が必要と見られます。

This chatbot can make mistakes. Please consider reviewing important information.

Metareal AI LLM 2



異なるアーキテクチャや学習データを持つ多様なLLMをAPIやプロトコルを介して動的に連携させることで各モデルの入出力や内部状態をリアルタイムで監視・制御、タスクに応じて最適なモデルの組み合わせとパラメータ調整を行います。単一モデルでは困難な複雑なタスクを、複数モデルの協調動作で高精度に処理し、転移学習や fine-tuningにより、企業の業務に特化したドメイン知識を各モデルに効率的に統合します。

「Metareal AI LLM 2」は、複数LLMの連携と業界特化型チューニングにより、専門文書AIとの親和性を高めた次世代AIオーケストレーションシステムです。

Metareal AI LLM 2は、AIの企業活用を大きく前進させるシステムです。複数LLMの連携により、単体モデルの限界を超えた高度な課題解決を実現。さらに、業界特化型チューニングにより、専門文書AIとの親和性を高めることで、企業の業務に直結したAI活用を可能にします。製薬や市場分析から始まり、順次他業界へ展開することで、あらゆる企業のDXを加速させるでしょう。当社の取り組みは、AIが企業の競争力の源泉となる未来を切り拓きます。

AIが自律的に構築する、超ニッチニーズに応えるハイパーローカルシステム 専門文書AIとは対極の、AIファースト事業のロールモデルの構築を目指します。

専門文書AI

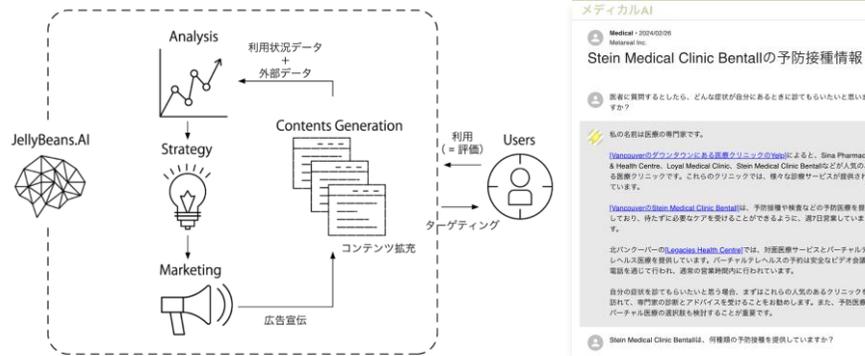
企業の具体的な課題にカスタム

専門文書AIは、2B向けに特化した徹底的なカスタムメイドサービス。各企業の業務や扱う文書の特性を深く理解し、AIモデルを最適化。これにより、企業ごとに異なる複雑な課題に、柔軟かつ効果的に対応。



AIが自律的にバリューチェーン全体を構築・運用し、超ニッチな2Cニーズに応える、実験的システム

バリューチェーンの自律構築



JellyBeans.aiは、Metareal AI LLM 2による複数の大規模言語モデルの組み合わせを活用。個人のニーズを動的に理解し、最適なサービスを自動生成。マルチエージェントにより、サービスの作成から提供までのバリューチェーン全体をAIが自律的に運用します。継続的な学習と適応により、常に進化し、新たなニーズにも柔軟に対応。この革新的なアプローチにより、人的労力を最小限に抑えつつ、超ニッチなニーズにも応える状態を目指します。

2B特化 / 徹底したカスタムメイド

専門文書AIは、企業の現場の具体的な課題に対し、当社専門チームによる徹底的なカスタマイズで対応。これにより、企業の業務に直結した高度なAI活用を実現し、大きな価値を提供します。

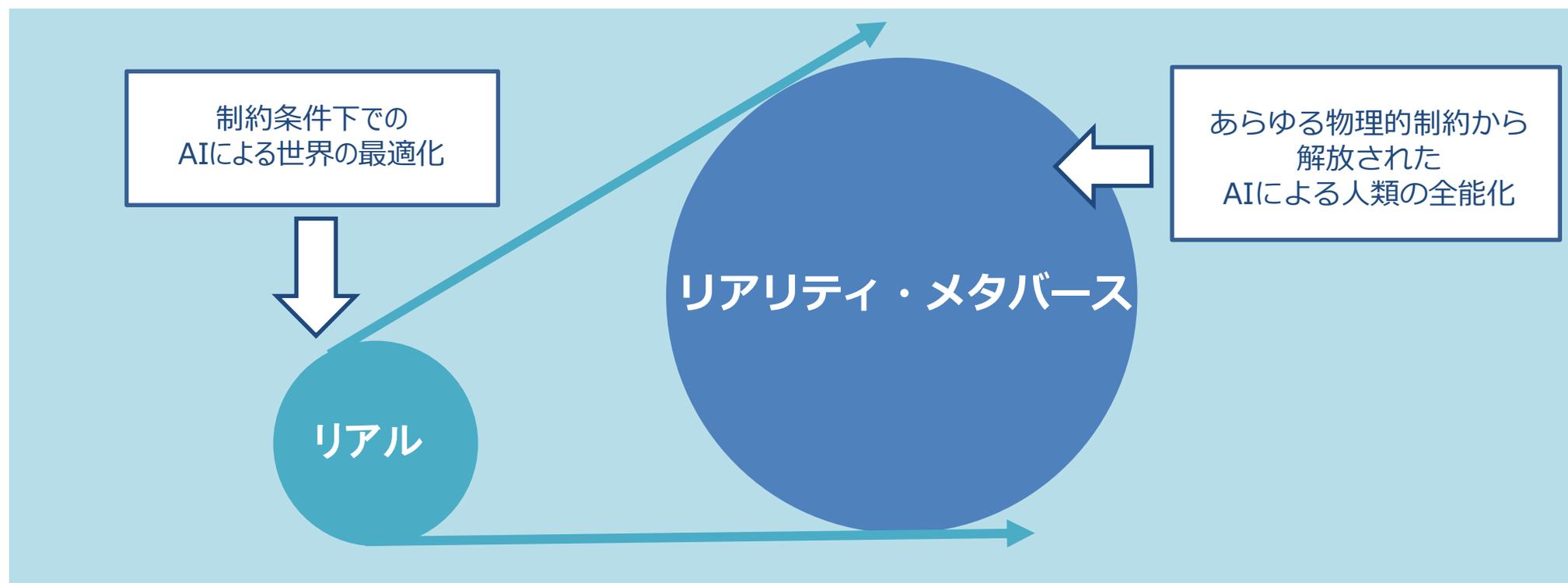
2C特化の超ローカライズ / サービスほぼすべてをAIが運用&生成

JellyBeans.aiは、2C向けのハイパーローカルサービスをAIが自動的に運用・生成するシステム。世界中の個人のバラバラなニーズをAIが察知し、人的労力なしで超ニッチなニーズにも対応。AIによる自律的なサービス提供を実現します。



長期成長戦略（メタバース）

メタバースを長期戦略として残す理由



AI翻訳によって人々を言語的ハンディキャップから解放し、生成AIによって単純作業の苦役から解放したのち、当社がなすべきミッションは、身体機能と物理的制約からの解放。

当社がこれまでに、そして今この時も、全力で取り組むAI技術は、人類にメタバースという新たな世界が解放された時、真の力を発揮する。

様々な制約に縛られたリアル世界においてさえ、これほどまでに人類に力を与えるAI技術を、すべての制約から解放されたメタバース世界と融合させ、人類に真の創造の翼を与えることが当社の目標。

新しい技術が市場に導入されてから成熟に至るまでの進行過程を視覚化したフレームワークとしてハイプ・サイクルがある（図）。5つのフェーズから成り立つ。

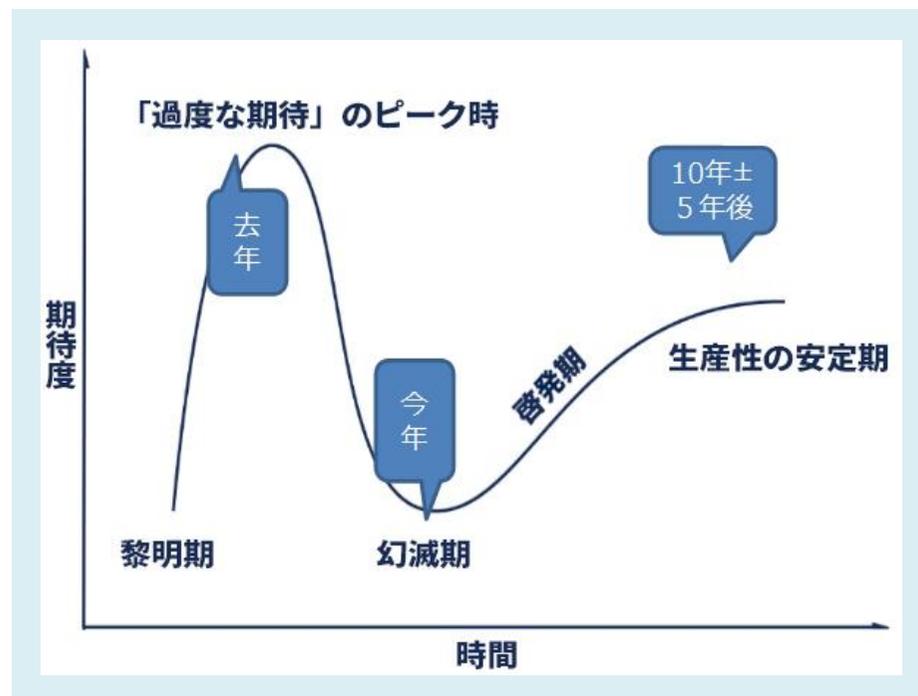
1.技術トリガー：新技術が市場に登場し、メディアの注目を集める初期段階。しかしこの時点では実用化はまだ遠い。

2.過度な期待：初期の成功が報道され、一部の早期採用者が新技術を試す。しかし、多くの場合、この段階では技術は過大評価され、実際の有用性は限定的。

3.幻滅の谷：技術が期待を満たさないと広く認識され、メディアの関心が減退。しかし、この段階で技術の開発と改善が続けられる。

4.啓蒙の斜面：技術の実用性と商業的価値が徐々に理解され、2次、3次の世代の製品が開発される。

5.生産性の高原：技術が主流になり、その価値が広く認識され、実際の市場適用が行われる。



インターネットやスマホもかつて同じ道をたどった。「過度な期待」の後「幻滅期」が来たが、いまでは完全に基幹的なパラダイムを塗り替えた。

現在当社は、メタバースについては去年が過度な期待で、今年が幻滅期になると想定している。

そして10年±5年後にはインターネットやスマホと同じく、メタバースが当たりまえの世界になっているという前提のうえ、その時に開花することを目論んでメタバース事業を長期成長戦略として位置付けている。

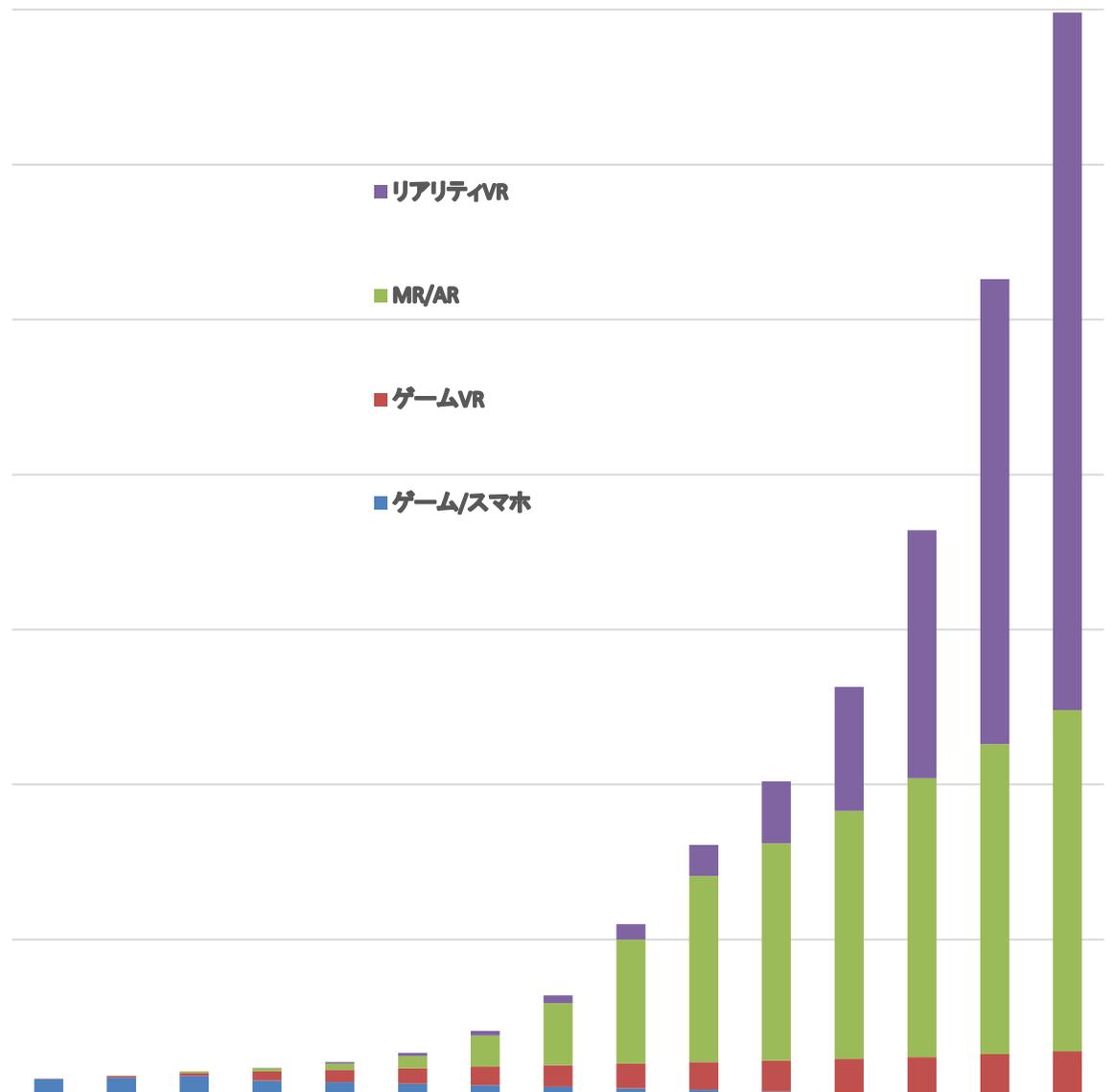
当社が想定しているメタバース市場の長期推移 (イメージ) MetaReal

現在当社が長期成長戦略を考えるに際に前提としているメタバース市場の長期推移仮説(右図)。

- ①現在のメタバース市場は、ほぼゲーム機やスマホ上で行うゲームで占められている。
- ②次はVR上でのゲーム市場が急激に伸びる。
- ③そしてウェアラブルグラスの登場とともにゲーム以外のリアリティニーズのMR・AR (拡張現実) 市場が緩やかに立ち上がっていく。
- ④最後に、ハードウェアと通信回線の進歩が十分になった時点でリアリティニーズのVRの時代がやってくる。

当社のリアリティ・メタバースは④に狙いを定めている。

10年以上スパンの長期戦略としてリアリティメタバースの領域を先回りし、メタバース市場100兆円のシェア0.1%、1000億円の売上を目指す。



* グラフは推移イメージです。特定の金額、年次を予測するものではありません。

メタバースは今後世界で最も急成長を遂げる分野と言われ、市場規模予測調査の例として、2028年までに100兆円規模（960億米ドル：*1）、2030年までに80兆円規模（715億米ドル：*2）となる等とされる。当社のこれまでの事業が主に日本市場限定であったのに対して、メタバース事業の対象は世界市場となる。



※1: EMERGEN RESEARCH Metaverse Market
<https://www.emergenresearch.com/industry-report/metaverse-market>

※2: Market Research Future® Metaverse Market Research Report
<https://www.marketresearchfuture.com/reports/metaverse-market-10744>

第1の特徴

世間一般のメタバースがアンリアル（ゲーム・CG・アニメ）が中心であるのに対して 当社はリアル（実生活・実写）をコンセプトとしてポジショニングしている。
「メタバース=アンリアル」と「AR=リアル」のブリッジ。

リアリティ・メタバース

第2の特徴

メタバーサー構想

ワールドを作成したりイベントを開いたりするユーザー（メタバーサー）による自律駆動のメタバース。

第3の特徴

AI x メタバース

当社のメタバースは「リアリティ・メタバース」が特徴。メタバーサーがワールドを自律的に生成しイベントや交流を行うプラットフォーム。

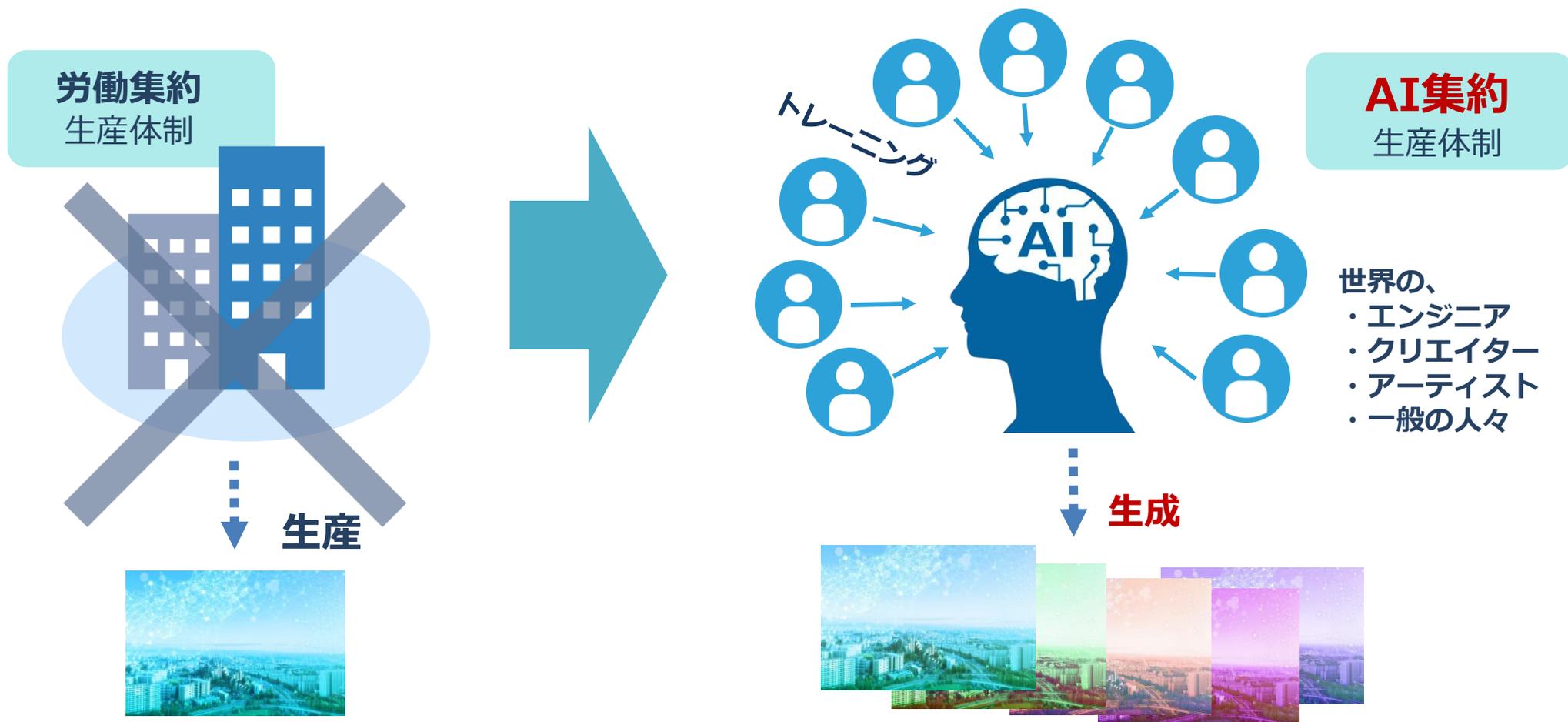
「どこでもドア」 <https://dokodemodoors.com/>
これを支えるのが、メタバースワールド自動生成等のAI技術群となる。



AI x メタバース ワールドの生成から体験まで

AI集約的ワールド生産体制

当社はAI集約的なメタバースワールド生成を採用。世界のエンジニア、クリエイター、アーティストたちはAIのトレーニングを通して、また、一般の人々はAIを利用して、それぞれの創造性を発揮する。労働集約的な作業は不要になり、膨大かつ多様なワールドがAIにより自動生成される。



Genesis

AIを用いたメタバースワールドを自動生成する生成AI。
当社を象徴するコア技術に位置付けられる。

https://www.youtube.com/watch?v=qgG5OwhT_fk

Dimensions

2次元の360度映像を3次元化し、さらにその中を自由に動き回れるようにするためのAI技術。

https://www.youtube.com/watch?v=IYA1kaM_yP8

GenesisとDimensionsの統合

「Genesis」で生成された2次元の世界空間を、「Dimensions」で3次元化し、ワールド内を移動可能とすることに成功。さらに、ワールドとワールドをシームレスに繋げる技術を開発することで、無限に移動可能な広大な「リアリティ・メタバース」を創出する。

<https://www.youtube.com/watch?v=2uduNpZ-1kU>

自動生成ワールドを3Dモデルとしてエクスポート

「Genesis」と「Dimensions」によって生成された3次元ワールド空間を、3Dオブジェクトファイルとして外部にエクスポートする。AIと人間のクリエイターが共同で、より高度なワールドを構築することが可能となる。

<https://www.youtube.com/watch?v=6J0ocusWDtY>

2D映像をメタバースに転生 『Diveverse』

『DiveVerse』発表。膨大な2D映像資産をメタバースに転生。SF映画の傑作「Metropolis」を先端技術による没入型作品の第一弾として公開。

<https://youtu.be/OLKvzrKL0hM>



デジタルツインを自動で生成する AI受託開発ソリューション提供を開始

MATRIXでは2024年3月より次世代の3D空間構成技術「Gaussian Splatting」を利用した受託開発ソリューション提供を開始した。

従来手法のデジタルツイン構築としては「3D レーザースキャン」「平面キャプチャ画像の組み合わせ」が存在したが、前者は手間とコスト、後者は視点・視野に制限があるなどの課題があった。

そこでMATRIXは、最先端のGaussian Splatting技術を活用して、特別な機材や追加の作業が不要な、スマートフォンで撮影した動画からAIがリアルなデジタルツインを自動で生成するソリューションを開発した。

当技術は、建設、不動産、製造業など産業向けに提供を開始。

受託開発ソリューション ユースケース

これまでMATRIXは実写の360度映像をベースにしたメタバース空間共有プラットフォーム「どこでもドア」の開発と運営を通じて、法人からメタバースに関する様々な相談や問い合わせを受けてきた。その内容を考慮し以下のユースケースを想定。



不動産物件の内見

遠隔地からまるで現地で住宅を内見しているようなVR内見



山間部の橋梁建設の完成形を確認

動画から生成したVR空間内に図面から生成した橋を合成、完成後の橋の上を体験



プラント設計のスプール図レビュー

プラント設計の段階で事前に2D図面からVR空間内でリアルな完成形を確認する



工場内機械設置の事前確認

工場内に機械を設置する場合の位置などをリアルな状態で事前に確認できる

スマートフォンで撮った動画からAIがVR空間を生成 ガウシアンVR（不動産内見向け）

これまでの内見用のVRは、360度カメラで外観や物件内を撮影し編集という手間とコストのかかるもの。物件数が増えるほど作業量も増えるため、内見VRを取り入れたいと思っている不動産業の方でも導入を躊躇っているのが現状。

MATRIXの不動産内見VRは、スマホで撮影した物件の動画を入力するだけでAIが瞬時にVR空間を生成。完成したVR空間ではまるで実際に物件の室内を歩いているかのような、リアルな内見を体験することができる。



搭載機能

受託開発ソリューションで生成したVR空間には以下の機能を搭載。
顧客からの要望によっては機能の追加も検討予定。



ウォークスルー

メタバース空間内を自由に歩行



会話/Chat (議事録)

空間内での会話を全て議事録にして保存



PC画面共有

PC画面を表示して補足説明



マルチプレイ

複数人（顧客と販売員）が空間に一緒に入る



AI音声自動翻訳

メタバース内の会話を全て自動音声翻訳



2025年2月期 業績予想

◆連結業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期	4,946	18.4	412	△ 44.8

◆セグメント別業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
2025年2月期				
AI事業	3,600	17.8	519	△ 44.5
HT事業	1,146	2.6	210	44.7
メタバース事業	200	-	△ 200	-
その他本社費等	-	-	△ 118	-

今期は、一気に成長を加速することを最優先テーマとする。
 受注高で約35%、売上高で約20%の対前年成長を目指す。
 そのための先行投資としてマーケティング費用を中心に3.5億を投下。

ご留意事項

- 本資料は、株式会社メタリアルルの業界動向及び事業内容について、株式会社メタリアルルによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社メタリアルルの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、2024年7月12日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社メタリアルルによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

本資料のお問合せ先
株式会社メタリアルル
グループ管理本部
メールでのお問合せ： ir@metareal.jp